

## 分子標的治療が施行された転移/再発性腎細胞がん患者の予後解析（多施設後方視的観察研究）

### 1. 研究の対象

2008年4月～2015年12月に当院で腎細胞癌に対して分子標的薬による治療を受けた方

### 2. 研究目的・方法

転移あるいは再発性腎細胞がんの治療はこれまで、インターフェロン・インターロイキン2によるサイトカイン療法がその中心を担ってきました。しかし近年は、腫瘍自身や腫瘍への栄養血管(血管内皮細胞)を標的とした分子標的治療薬(チロシンキナーゼ阻害薬またはmTOR阻害)の開発を契機に、特に本邦では2008年に保険承認されて以降、本薬剤が「根治切除不能又は転移性の腎細胞癌」治療への第一選択となっております。今回我々は、分子標的治療を施行した転移/再発性腎細胞がん症例の予後予測因子の検討を考えております。分子標的薬治療による予後が薬剤の治療前に予測できれば、治療薬選択を含めた患者の治療方針の決定に有用な情報となると考えます。

本研究は多施設共同研究として慶應義塾大学病院泌尿器科にデータを集積して解析を予定しており、参加施設には防衛医科大学校病院泌尿器科学講座、埼玉医大国際医療センター泌尿器腫瘍科、済生会中央病院泌尿器科、さいたま市立病院泌尿器科、東京歯科大学市川総合病院、愛知医科大学泌尿器科等が参加しています。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、既往歴、薬剤内服歴、CTやMRI等の画像所見、病理組織学的診断結果 等

試料：なし

### 4. 外部への試料・情報の提供

主幹大学へのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態（電子配信等）で行います。対応表は、当センターの研究責任者が保管・管理します。

### 5. 研究組織

慶應義塾大学病院泌尿器科 水野隆一

防衛医科大学校病院泌尿器科学講座 伊藤敬一

埼玉医大国際医療センター泌尿器腫瘍科 城武卓

済生会中央病院泌尿器科 伊藤祐二郎

独立行政法人国立病院機構埼玉病院泌尿器科 門間哲雄

さいたま市立病院泌尿器科 増田毅

東京歯科大学市川総合病院 萩原正幸  
愛知医科大学泌尿器科 金尾健人

## 6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、  
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

埼玉県所沢市並木 3-2 防衛医科大学校泌尿器科学講座  
伊藤敬一（研究責任者）  
Tel: 04-2995-1511(内線 2351)

研究代表者：

慶應義塾大学医学部泌尿器科学教室 水野隆一